

かづまる 通信

子供への思い「なにぬねの」

- ① 泣いたっていい
- ② 逃げてもいい
- ③ 抜かれたって構わない
- ④ ネジを巻く時間も必要さ
- ⑤ のんびりいこうよ

【社会的自立を目指して】

日暮れがめっきり早くなり、秋の深まりを感じさせます。秋の夜長には親子で語らいながらゆっくりとした時間を過ごすといった、心に残る時間の使い方でもできそうですね。



学校では、子供たちの社会的な自立を目指し、学習や行事において自主性を育む指導を行っています。子供自身が目標を考え、その達成のための方法を設定します。時にはうまくいかないこともあります。失敗を生かしたより良い取組につながるよう指導しています。

大人が子供たちに失敗をさせないように、なんでもコントロールしてしまい、子供が力を付けていく機会を奪ってしまう姿が見られます。子供の悩みや苦しみを理解しつつ、辛抱して見守っていくことが大切な場合があります。子供たちには、たとえ挫折をしたとしても、何度でも立ち上がり、やり直し、達成に至るまで努力を重ねられる力があります。そのような力を発揮し、困難を乗り越える経験を積み重ねた子供が、社会に出て夢を叶えることができる大人になれるのだと思います。結果も大事ですが、その結果に至るまでどれだけ努力を重ねたかという過程こそが、子供の成長につながるのだと思います。だからこそ、私たち大人がその過程をしっかり見守り、認め、励ますことが大切です。「失敗は成功の母」と言います。子供の大きな成功のために、支えられる環境を作ってあげたいものです。

【10月のS C来校日】

6日(火) 13日(火) 20日(火) 27日(火)



親子の小窓



第6回テーマは「共感的理解」です。「共感的理解」とは相手そのものを理解することです。これまで「親子の小窓」で紹介してきた「傾聴」や「受容」などの実践を通し、相手の考え、立場、個性、全てを受け入れようとする、カウンセリングの基盤になるものです。お子さんの状況にもよりますが、共感的理解を意識した支援を行う際に、してはいけないのは「評価」や「助言」です。お子さんにとって、家族に理解してもらくくらい安心することはありません。言葉と、その言葉の裏にある本当に伝えたいことまでを感じ取るようとする姿勢を、大切にしたいものです。

関わりのポイント

- 1 「自分の考えを伝える」のではなく、「子供の考えを引き出す」のが大切です。
- 2 「相手を変えよう」と考えるのではなく、「相手の心に寄り添おう」と考え、子供の話を傾聴してください。

